

「夏休みセミのぬけがら調査」入門コースさざんかの家結果報告

船橋市環境保全課

1 概要

夏の代表的な昆虫であるセミ(のぬけがら)の調査手法を伝授することにより、身近な自然への関心を深め、自然環境保全思想の醸成をはかることを目的にさざんかの家(青少年キャンプ場)を会場に実施した。講師に船橋自然環境調査の市民調査員2名を講師に迎え、小学生以上の市民まで21名が午前、午後に分かれ実施した。

2. 調査

(1)開催日時 8月7日(日) 午前の部 9時から12時、午後の部13時から16時

(2)会場

さざんかの家(青少年キャンプ場)

(3)内容

セミの生態やぬけがら採取のポイントについて学んだ後、グループごとにセミのぬけがらを採取した。会場に戻り、ぬけがらの同定を行ったのち、牛乳パックを使った標準標本を作製した。

(4)スケジュール

午前の部 13名

9:00 オリエンテーション

主催者挨拶、講師紹介、調査方法解説(約15分) 講師:関さん 別紙「調査の手引き」参照

9:20 キャンプ場内の森でぬけがら採取

10:15 さざんかの家に移動後見分け方の解説

11:00 標準標本の作製、講評

12:00 解散

(午後の部)

13:00 オリエンテーション

主催者挨拶、講師紹介、調査方法解説(約15分) 講師:関さん 別紙「調査の手引き」参照

13:30 キャンプ場内の森でぬけがら採取

14:30 さざんかの家に移動後見分け方の解説

15:20 標準標本の作製、講評

16:10 解散

3. 結果

(1)参加者数

午前13名、午後7名の20名であった。このうち13名が小学生であった。

(2) 確認した種、ぬけがら数

午前は4種227個、午後は3種385個のぬけがらを確認した。前の2ヶ所(西船橋出張所、宮本公民館)と比べ、ぬけがらの数は5 - 10倍と多く、優占種も樹林性を示すヒグラシが多かった。反対にアブラゼミが少なく、ミンミンゼミは確認できなかった。午前と午後で採取場所を変えたが、傾向に差は認められなかった。

	午 前			午 後		
	オ ス	メ ス	計	オ ス	メ ス	計
アブラゼミ	16	4	20	16	3	19
ミンミンゼミ	0	0	0	0	0	0
ニイニイゼミ	24	6	30	26	9	35
ツクツクボウシ	2	0	2	0	0	0
ヒグラシ	97	78	175	161	170	331
計	139	88	227	203	182	385

4. 講評

自然に恵まれた青少年キャンプ場での調査のため、確認した種も樹林性を示すヒグラシ、ニイニイゼミが優占種であった。ここにおいても羽化の遅れが感じられた。なお、ツクツクボウシが少ないのは時期が8月上旬のためと思われ、今後羽化が始まると思われる。

参加者は、講師の熱心な説明を受け、ぬけがらの見分け方を習得するとともに、生息地の種の関係やセミの一生の説明によりセミに対する認識を深めたと思われる。

また、標準標本作製したことにより、他の地区におけるぬけがら調査が可能となった。



